

8-4-8 協調領域検討WG

1. WG 設置主旨

東京大学「i-Construction システム学寄付講座」における研究を通じて、i-Construction の推進に当たり、インフラ事業関係者が誰でも利用可能なシステム（協調領域）の開発整備の必要性が認められた。この協調領域を社会実装するための技術的検討および開発運営の体制や制度・仕組みの検討を目的として、令和 4 年 3 月、東京大学 i-Construction システム学寄付講座に「協調領域検討会」が設置された。同検討会において、本協会は設計段階を対象とした検討（設計 WG）を主導することになり、当初は生産性向上 WG が担当していたが、令和 5 年 6 月、その役割を強化する目的で当 WG が新たに設置された。

2. 主な活動の記録

当 WG は「設計 WG」の主導を主としつつ、一方で「維持管理 WG」や「プロセス間連携 WG」等の他 WG へも人員を派遣しながら、建設業界全体の検討に貢献した。これらの活動では、測量、地質調査、施工、国土交通省等、建設業界を構成する様々な業界団体とも連携しながら、従来の業界間の役割分担の改善も踏まえた協調領域の社会実装に向けた検討を行った。

「設計 WG」では、検討を具体的に進めるために、設計が対象とする 3 つの工種（河川、道路、橋梁下部工）を対象とした SWG を設置し、それぞれにメンバーを割り振った。さらに、これら最先端の議論は次世代を担う者達にも有益であるとの考えから、委員以外の希望者に「サポーター」として参加させた。

(1) WG の開催（計 8 回）

当 WG は、当協会以外の産官学からも参加する協調領域検討会の「設計 WG」と同時開催という形式をとって、合計 8 回開催した。また、これらの WG の進捗に合わせて、別途 SWG を開催した。

- a) 第 1 回 WG 会議（6 月 30 日）
- b) 第 2 回 WG 会議（7 月 18 日）

- c) 第 3 回 WG 会議（9 月 29 日）
- d) 第 4 回 WG 会議（10 月 27 日）
- e) 第 5 回 WG 会議（11 月 24 日）
- f) 第 6 回 WG 会議（12 月 22 日）
- g) 第 7 回 WG 会議（1 月 26 日）
- h) 第 8 回 WG 会議（3 月 1 日）

(2) 東京大学「協調領域検討会」へ参加

「協調領域検討会」の全体会議に参加し、検討の進捗内容を報告した。

- a) 令和 5 年度第 1 回（4 月 21 日）
- b) 令和 5 年度第 2 回（7 月 21 日）
- c) 令和 5 年度第 3 回（10 月 23 日）
- d) 令和 5 年度第 4 回（1 月 26 日）

(3) 第 1 回「協調領域セミナー」の主催^(※)

協調領域検討会の概要と設計 WG の検討内容について当協会の会員企業に周知する目的で、会員企業向けのセミナーを主催した。（※ 当 WG の設立以前、生産性向上 WG 内として対応した。）

- ・日時：令和 5 年 4 月 13 日

(4) 東京大学「第 3 回協調領域シンポジウム」への参加

東大主催の協調領域検討会の全体報告会のなかで、設計 WG の検討内容について報告した。

- ・日時：令和 6 年 3 月 8 日

(5) その他の対外活動

- ・土木学会年次学術講演会（共通セッション「データ連携とプロセス改革」の主催）
- ・土木学会「第 5 回 i-Construction シンポジウム」（河川 SWG と道路 SWG よりそれぞれ発表）

3. 次年度の活動について

新に砂防分野を対象とした SWG を追加して、4SWG 体制に増強して検討を継続する。

- ・WG：毎月 1 回程度で計 8 回
- ・SWG：適宜開催
- ・協調領域セミナー：第 2 回（4 月）
- ・協調領域シンポジウム：第 4 回（3 月）
- ・対外活動：土木学会全国大会（9 月）、他

（協調領域検討WG WG 長 小沼 恵太郎）